

「魁陽亭」の歴史ネット発信 樽商大

小樽商大は市内住吉町の旧料亭「魁陽亭」の研究

成果を紹介する公式ホームページ(H.P.)とフェイスブック(F.B.)を開設した。日ロ外交の舞台の一つとなり、近現代史を彩る著書人が訪れた歴史的建造物の価値を市民らに再認識してもらう目的で、同大研究者が14日から毎月「歴史」「遺産」「人物」などのテーマごとに発信する。

魁陽亭は明治初期に開業し1896年(明治29年)の大火で焼け、再建された。木造2階建て延べ約1800平方メートルの建物で「開陽亭」「海陽亭」と名称を変えながら2015年の閉店まで道内を代表する料亭として営業。18年には日本遺産「北前船寄海地」の構成文化財にも指定され

ている。小樽商大は同年から建物所有者と共同研究を実施し今回、2年間の成果をまとめた。日露戦争後の1906年(明治39年)、画国軍



旧魁陽亭とは

人らが出席し旧日本郵船小樽支店が開いた樺太国境画定会議、樺太境界画定会委員会議、後の祝宴会場となったことや伊藤博文、渋沢栄一、三船敏郎、石原裕次郎、山口瞳といった政財界人、俳優、作家も多数訪れたことをゆかりの品と併せて紹介。70年代以降の北海道旅行ブームの中、ウニなどの海鮮を使った

た同料亭のメニューが北海道料理として普及したことも解説する。当初、4月に市内でシンポジウムを開き発表する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大で来年3

月までをめぐり延期し、HP (https://onc-kaiyotei.com/about-2/)などで先行し、テーマごとに成果を発信することにした。同大の高野宏康倉員研究員は成果について「旧魁陽

亭に残る経営文書や書簡、ゆかりの人物の関連資料などを整理し、歴史的意義を明らかにした。サイトを通じ、多くの人に新たな知見に触れてほしい」と話す。(西依一憲)

魁陽亭の研究成果を紹介する公式ホームページ。フェイスブックともリンクしている